

10月30日に盛会裏に終了いたしました。多数の方のご参加ありがとうございました。



一般社団法人次世代センサ協議会 課題勉強会

斜面・土砂災害モニタリングにおける気象・土質問題

異常気象の時代、斜面崩壊や土砂災害の情報システムや災害予測システムに3Dセンサや傾斜計や加速度計などのセンサにより、リアルタイムにモニタリングするIoT防災システムの研究開発が進んでいます。

何処にどんなセンサを設置すればよいか、地表や地盤の知見を持つことがセンサやシステム技術者にとって必須となっています。

そこで、斜面や土砂災害を引き起こす要因である気象と地盤構造に着目し、土木・地盤工学の国際的な研究者である茨城大学名誉教授の安原一哉先生にご講演いただき、いろいろな疑問に回答いただく課題勉強会を企画しましたので、ぜひともご参加ください。

なお、社会インフラ・モニタリングシステム研究会では関連する講座の開催を予定しています。

(企画担当：高田敬輔)

斜面・土砂災害予防のための計測管理システムを構築における気象・地質に関する疑問	<地盤に関わる疑問>
	<ul style="list-style-type: none">・斜面・土砂災害は、どのようにして発生するのか？・地盤災害を起こしやすい地質はどのようなものか？・気象や発生日時など、災害の起こりやすい状況はどのようなものか？・地震に伴う液状化はどのような現象か？
	<計測管理に関わる疑問>
	<ul style="list-style-type: none">・現状における斜面計測管理の課題は何か？・IoT防災システムの現状と課題は何か？・Society5.0、スマートシティなどとの関連性はあるのか？

■開催日：2019年10月30日（水） 14:00～17:00

■会場：中央大学駿河台記念館 330号室（東京都千代田区神田駿河台3-15-1）

■主催：一般社団法人次世代センサ協議会、社会インフラ・モニタリングシステム研究会

■参加費：次世代センサ協議会会員 無料、非会員 5,000円（消費税込）（※資料は配付しません。）

■参加定員：30名

■プログラム

14:00～14:45	【課題提起】斜面防災管理システムの構築、実装に向けて 講師：UGS 代表 宇津木慎司氏
15:00～17:00	【講演】なぜ斜面・土砂災害は多発するのか？ 講師：茨城大学名誉教授 安原一哉氏

<講師プロフィール>

安原一哉先生：1944年茨城県生まれ。1968年九州大学工学部卒、1978年工学博士。専門は、土木工学、地盤工学。地震時など繰返し荷重を受ける軟弱地盤の挙動の解明や新しい地盤技術（地盤補強や地盤の軽量化など）の研究開発に専念してきたが、ここ20年は、環境と災害の関係性に関する地盤工学、とくに、地震と気候変動がもたらす複合的災害の低減のための手法や技術の開発に強い関心をもっている。併せて、2016年以降、熊本地震の調査（文科省科学研究費助成による）にも関わっている。

宇津木慎司先生：平成6年 京都大学大学院工学研究科資源工学専攻修了、(株)間組入社
平成31年(令和元年) UGS 設立、3箇所のダム現場における地質に関する現場管理業務、山岳土木建設現場における地質に関する技術支援業務などに従事。